

肝がん

「肝炎ウイルス治療で発がん予防」



徳島大学病院
消化器内科 医師

田中 貴大氏
たなか たかひろ

肝がんのほとんどはB型・C型肝炎ウイルスに感染した患者さんから発症し、そのうち約70%はC型肝炎が原因です。つまり肝炎ウイルス治療により発がんのリスクを低下させることができます。

数年前よりC型肝炎ウイルス治療は従来のインターフェロン治療ではなく、経口薬で治療できるようになり、高い治療効果とともに副作用が少ない治療と言われています。

また近年は非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)という生活習慣病からくる肝疾患の患者さんが増えてきており、時には肝がんになることもあり注意が必要です。

肝炎の正しい情報

を知ることで肝がん予防にもつながります。肝疾患に関する疑問がございましたら、専門外来への受診をおすすめします。



徳島大学病院がん診療連携センター

お問い合わせ がん診療連携センター：Tel.088-633-7312

がん相談支援センター

相談窓口 Tel.088-633-9438

徳島がん対策センター

<http://www.toku-gantaisaku.jp/>